

2014/2/10 19:30

## 人気急上昇の吟醸酒「獺祭」 加東の山田錦農家が部会結成



あいさつする旭酒造の桜井博志社長 = 加東市藤田

拡大

高級酒米・山田錦の産地、兵庫県加東市藤田地区で、生産農家31戸が「藤田山田錦部会」をつくった。同地区は、積極的な海外進出などで知られる「獺祭」銘柄の旭酒造（山口県岩国市）にほぼ全量を販売するとの“村米契約”を結んでおり、9日に同地区の公民館であった設立総会には、同社の桜井博志社長ら約40人が出席した。

部会設立で山田錦の栽培技術や品質のさらなる向上を目指し、人気銘柄の増産を支える。

「獺祭」は酒米に山田錦だけを使った吟醸酒で、サッカー元日本代表の中田英寿さんら国内外の著名人に愛飲されるなど知名度が高く、近年著しい成長を遂げている。年間生産量は現在、2165キロリットルだが、建設中の12階建て酒蔵が来年2月に完成すると、年間9020キロリットルを生産できるという。

2008年、JAみのり（加東市）の仲立ちで、同地区で生産された山田錦のほぼ全量が同酒造に販売される約束が口頭で交わされた。以来、地区の秋祭りに「獺祭」コーナーを設けたり、同地区の生産農家が同酒造をたびたび訪れたり、親交を深めてきた。

設立総会で桜井社長は「（獺祭などの人気で）近年山田錦が足りないが、昨年安倍晋三首相と会う機会があり、その後酒米が生産調整枠から外れた。藤田地区の山田錦をますます発展させてほしい」などとあいさつした。

その後の議事で、初代部会長に杉本孝良さんを選出したほか、旭酒造との交流を深めることなどを記した部会規約を承認した。

JAみのりによると、加東市内で山田錦部会が設立されたのは3地区目。部会という名前ではないものの、同様に特定の酒造会社とつながりを持つ地区がほかに数例あるという。（田中靖浩）